

2月号

第301号

いっしん

平成22年(2010年)

不足を言うより
生かされておることの
お礼を先に
申し上げねばならん
甘木親教会
初代親先生ののみ教え

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良郡加治木町朝日町130 発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp ホームページ <http://www.7a.biglobe.ne.jp/~konkokajiki>



甘木親教会奥津城
平成22年1月3日 年頭参拝



奥津城からの眺望

一月三日、甘木親教会へ年頭参拝をさせていただきました。甘木親教会では、安武道義親先生ご祭主のもと新年初めての月例祭が仕えられ、信奉者集会での感話発表・親先生のご教話を拝聴させていただき、恒例のみ教え福引を引かせていただきました。

ご教話では「信心する人は、第一の心得が、腹の立つことがあっても腹を立てないようにせよ。腹を立てては家内の不和を起す。人と仲違いをする。世間を見よ。後にはわが身を捨てる者がある。これは堪忍が足らないのである。堪忍は、ごく大切なものと心得よ」(教典・津川(治雄の伝え))とありますが、初代夫人のシゲ刀自は初代のことを「これほど辛抱強い人はなかつた」と話してあつたそうです。信心には堪忍・辛抱ということが大切であろうと思います、とお話になられてありました。

信心には「天地の大神」を知ることや、「ご恩に報いる」ことが大切と教えられてあり、それはいろんなみ教えやお話で少しずつ理解でき勉



東郷教会 奥津城にて 1/3

強できますが、堪忍や辛抱ということ
は、なかなか容易に身に付くこと
はありません。
福引で「み教えは人より己が身の
守り守りて後に人に教えよ」とのみ
歌が当たりました。
自分自身に豊かな人間性を涵養
して、さらに後に人に教え伝えるま
でにならせていただくには、悠久な
天地の営みやご恩を余程シツカリ身
に修めなければほんとうに人へ伝え
ることはできないことでしょう。

鹿兒島地方教会連合会

定期総会

開かれる

一月二十四日(日)、鹿兒島教会に
おいて鹿兒島地方教会連合会定期総
会が開かれ、加治木教会からも教
師・信徒三名が参加しました。
開会式後、先ず大口教会長・御本
部教会部長の安武秀信先生から教団
動向についてお話を聴かせていた
きました。



議事では、連合会における前年度
の活動と決算の報告、今年度の活動
と予算の計画などが説明され審議・
承認されました。

午後、すべての議事が審議・承認
された後、信徒の代表と教師の代表
により、それぞれ二十分ほどの感話
が発表され、信心研修会がありまし
た。信徒の感話は、大口教会 東坂照
雄さん。教師の感話は、屋久島教会
長 岩川信雄先生でした。



屋久島教会長
岩川信雄先生

大口教会
東坂照雄氏

今年の
主な **連合会行事**

- 信奉者研修会** …… 七月十一日(日)
場所：串木野教会
- 女性の集い** …… 九月五日(日)
場所：未定
- 教師家庭婦人会** …… 七月七日(水)
場所：ダイエー7F
- 青年の広場**
…… 九月二十五(土)・二十六日(日)
場所：未定
- 典楽会** …… 三月十三(土)十四日(日)
場所：鹿児島教会
- 信徒部研修会** …… 三月二十八日(日)
場所：鹿児島市内
- 全国信徒会「西南ブロック研修会」**
…… 六月二十日(日)
場所：北九州市 小倉
- 少年少女全国大会参加**
…… 八月七(土)了九日(月)
- 記念祭**
- 川内教会 布教六十年
十月十一日(日)
- 枕崎教会 布教七十五年
十一月七日(日)

加治木教会の 連合会 社会活動委員会
災害対策支援金箱 には

3452円



入っております。
連合会 定期総会
社会活動委員会へ
支援金として納め
させていただきました。
ご協力ありがとうございました。

また、昨年の御本部本部耐震補強工事などの
義捐金箱には、**21791円** 貯まっております。
春の御本部御大祭時に「教団施設整備資金」と
してお供えさせていただく予定です。

あしあと

加治木教会行事記録

- 1(祝) 元日祭 正午
- 3(日) 甘木親教会年頭参拝
- 6(水) 少年少女会 10時半
- 9(土) 斎掃御用 10時
- 10(日) 生神光 月例祭 霊祭 10時半
大神様 併せて 成人感謝祭
- 19(木) 斎掃御用 10時
- 20(金) 月例祭 共励会 13時半
- 21(木) 23(土) (少)連合本部理事會
- 24(日) 連合会定期総会
- 31(日) 斎掃御用 10時半

講師 宮崎北教会長

松井 真佐雄 先生

平成二十年十一月二日(日)



《第⑦部》

師匠の祈り

いよいよ父が加法の教会に行く時が近づいた頃のことですが、境内の掃除をしているときのことです。服装は戦争に征つておったときのボロボロの汗と油にまみれたような作業着で掃除をしておると照先生が「ちよつと来い」と呼ばれてお広前に上がって行ったそうです。すると照先生は「ご結界の後手に立っておられて」「ご神前のご神飯を下げて来い」と言われたそうです。父は「はい、着替えてきます」と言

ったそうです。

芸備の教会は、甘木教会などもそうでしょうが、ご神前とか神饌室には教師でないと上がれないことになっています。しかも教師であっても羽折袴を着けないと上がれないことになっています。

そのため父は「着替えてきます」と言うので照先生は「そのまま上がるんじや」と言われ「このままでか」とさらに尋ねると「そのままで上がるんじや、今すぐご神飯を下げて来い」と言われたそうです。

父は腕まくりの袖を戻し巻き上げたズボンの裾も戻して、恐る恐るご結界の裏をご神前の方へ足を踏み入れて行き、ご神前の前まで来たときのことです。

芸備の教会は、ご神前に細かい銅の網戸があつて、いつもそれが閉まっています、その網戸に手をかけて戸を開けたのですが、どうしても内殿への一歩が踏み出せないわけです。

それで「先生」と言うので「早う下げんか」と言われるのです。

やはり恐れ多いわけです。神様の

前で、自信もない何もわからんつまらん自分のような者が、ご神前に入つてご神飯を下げるということはどうしてできないかと思つて断ろうとして後ろをふり向くと、照先生は胸のところまで手を組んでずーっと御祈念して下さっていたのです。

その御祈念しておられる姿を見ると足がスーッと自然にご神前に入ったというのですね。

父は「そのときに私は無限のものを頂いたような気がする」と表現しています。つまり信心の親、照先生の祈り続けられるこの祈りというものが、自分の背後にはいつもある。

それがあれば何も恐れることも心配することもない、いわば自分の自分の後ろ盾になつてくださつてある、一切責任を持って神様に祈つて下さつてある信心の親があるということをおわらせていただいたのです。この先生の祈りがあれば神様の御用が、恐れ多いけれども自分のような者でもさせていただけるといふ一つの自信というふうな信念につな



がって行くことができたわけです。私も自分の背後には何人かの先生や親の祈りというものを感じること

があります。私方の信者さんで今入院されてある方ですが、その方が「眼をつむると先生の御結界の姿が眼に浮かびます。そうして御祈念させていただきます」と言われるのです。

そう言うていただくとは有難い気がしますが、私の背後には私の在籍教会の亡くなられた初代先生ご夫妻がおられ、さらに手続き・関係の親先生がおられ、ずーっと歴代金光様につながって教祖生神金光大神様までつながっているんですね。つながる先生方、金光様がおられるのです。

ですから「私の姿を思い浮かべるのもいいけれども、そこにはそういう方々が背後におられるということ」を思い描きながら御祈念されたいですよ」とお話したようなことです。

加治木教会の信者さんも御結界に進めば、矢野章という先生しかそこには見えないでしょうけれども、その先生の背後には政美親先生や、甘木の二代の安武文雄先生、初代の先生、小倉の先生、金光様とずーっと連なってお取次下さっておるのです。

その無限のお祈りを頂いて、私達はお取次頂いておかげを頂くことができるわけです。私はそういうところを忘れてはならないと思うのです。

お結界お取次ぎの背後にあるもの

そのように思うのは、カナダのトロントに教会がありまして、カナダにはトロントとバンクーバーの二ヶ所にしか教会がありません。

そのトロントで御用されてあり

ます岸井貴雄先生、先ほどお話ししました新潟女子短期大学の岸井先生の弟さんである岸井貴雄先生がこういってお話しておられますのを読ませていただきました。

トロント教会の信者さんのお嬢さんが現地で大変な病気になるられて、もちろんトロント教会でお届けされておられるのですが、その人が岡山近くにおられる知り合いを通じて、御本部で四代金光様にお届けをされたのです。

その方が、これこれこういうこととお届けされると、四代金光様は「トロントには岸井がある」と一言仰られたそうです。

私は自分のことのように有難いことに思います。トロントには岸井が御用しておるであろうが岸井先生はカナダではたった二つしかない教会で一人ぼっちだけれども、御用しておるじゃないかと。

私達も御大祭になると先生方とこうしてお会いしますが、ふだんはお広前で一人ぼっちです。神様に向かい合うだけです。時には心細

い思いをすることもあるのです。

四代金光様が「トロントには岸井がある」と仰られたのは、岸井のところで神様にお取次ぎはできている、終っておろすが、ここにわざわざ参つてきてお届けしたらおかげ頂くように思うのは大間違い、そのトロントの岸井の背後をワシはお願ひしておるのだと仰つてあるわけですね。

それを聞かれた岸井先生は涙を流して喜ばれたそうです。

最初は「この遠くはなれたカナダで御用をしておる自分のことを金光様は覚えて下さつておつたか」というくらいに思つておられたそうです。その病気のお嬢さんを抱えておられる信者さんも「金光様がそう仰つて下さつた、相すまないことであつた、もつたいないことであつた」ということで私もそう思つていたというものでした。

けれども、それは私のお取次ぎの御用の上を金光様が御祈念して下さつておるということであり、これはトロント教会だけのことではない、全教の教会のお結界のことまで金光

様が責任を持つて御祈念下さつてあるということがわかつたというお話でした。

私はそれを読んでわからせていただいたのですが、私も教会に帰つてお結界に座れば、この姿形しか信者さんは見ないのですが、実はその背後に無限の金光様の祈り、手続きを通して親教会の祈りを込められてお取次ぎを頂いておるわけです。

それで、私達は何をお取次頂いておるのかということですが、ただお



かげを頂きたいということでもあるけれど、先ほどお聴きいただきましたように、父は照先生、範雄先生、二代の佐藤一夫先生方から、おかげ

を頂いておるといふことを見抜いていくという信心の眼を育てられ「おかげを頂いておるんだろが」と言われてみると、いろいろ難儀があつても「おかげを頂いておるには違いない」と我に返るところがありました。

そういう信心の眼を実は取次ぎ頂いて来ておるといふことを忘れないうつしたいものです。

立教百五十年と申しますが、そういうおかげを蒙らせていたただかねばならないと思ひます。

それで私は「どうするのか」

最後にもう一つだけ、いいことを教えていただいたと思うことがありましたので、お聴きいただいて終らせていただきます。これは広島県の尾道にある吉和教会の初代、岡田元造という先生のお話です。

尾道の方に因島という島がありますが、そこに中ノ庄という教会があります。その岡田先生が隣接教会なので、あるときの記念祭にお参

りされたそうです。

そのとき講師に高橋正雄先生がお見えになつておられ、高橋先生がお説教をされて、後のお直会の席でのことです。



「せっかく御本部から偉い先生にお出でいただいたのだから」というので中ノ庄教会の先生が半紙と墨を持ってきて「先生記念に何か書いて下さい」と頼まれたわけです。

そうすると高橋先生は「何を書いたらええんだら」と聞かれ、中ノ庄の先生は「何でもいいです」と、先生の思いつかれたことを書いて下さいという意味で言われたそうです。

すると高橋先生は「そうか」と言われさらさらと書かれたのが「何でもよい」と書かれたそうです。

笑い話のようです。「何でもいいです」と言われたから「何でもよい」と書かれたそうですが、周りで見て

いた人も呆気に取られて、誰も何も言う言わなかったそうです。

すると、このお話をされたその岡田先生が「これはあんた、エエことを書いてもらったな、すごいな、何でもよい、どんなものを持って来ても何でもよいと受け止めたら、これほど有難いことはないな」と言われて喜ばれたそうです。

私も、そういう頂き方があるのかと思いました。

そうして喜んでいると高橋先生が「そうかお前はそう思うか、それならお前にも一つ書いてやるう」と言われて、頼みもしないのに岡田先生に書かれたことは「どうするのなら」とひらがなで書かれたそうです。「どうするのなら」というのは向こうの方言で「どうするのか」という意味です。

その続きを仰ってないのですが、お前は「何でもよい」「いわばどうなつても有難いと言つけれども、それでお前は「どうするのか」ということなのです。その次の問いを投げかけておられるのです。

それで岡田先生は高橋先生から書いていただいた「どうするのなら」という紙を持って帰られてお結界の控えの間に貼っておられたそうです。岡田先生は信者さんのお参りが済むと、お茶が好きなものだからすぐに控えの間に下がられて、お茶を飲むうされるそうです。

すると、目の前に「どうするのなら」と書かれたものが貼ってあり、おちおちお茶を飲む気にもなれず、すぐにお結界に御用に戻られていたそうです。

またお参りが一段落すると控えの間に下がるけれども、また「どうするのなら」と書かれたものが眼に入つて、神様が問われているような気がして落ち着いてお茶も飲んでおられないので、その紙をはずしてしまわれたそうです。

はずしてしまつと、また、どうもこれではいけんと思われて、こんどは自分で「どうするのなら」と書かれて貼られたそうですが「自分で書いたのは効き目がありませんでした」と仰つてありした。

そういう話なのですが、私は 神様はそういうことを問うておられるのだな」と思いました。

私が九才の時の話も聴いていたのですが、おかげで私は今日お道の御用をさせていただくということになったのですが、「だけれども、それでお前はどのようなのか？」と、いつも神様に問われているということです。

「今日は加治木であの話させてください。どうぞ御用にお使い下さい」とお願いしてお話をさせていたけれど、父のことやその師匠のことなどのお話を聴いていただきましたが、皆さんにお話ししながら私も頂き直しておるのです。

そのようにして内容を頂き直してみて私が「どうなって行くのか」「どうなって行かなければならないのか」「お取次ぎはとか、このお道の信心はとか話しておるけれども、お前のお道はどうなって行かなければならないのか、どうなっておるのか、どうして行くのか」ということが、

その次の神様の問いかけと思うのです。今も問われておると思いつながら、答えのない問いだと思えます。

立教百五十年を迎えさせていただきます。お道が始まり、歴代金光様が命を懸けて御用下さり、その手続きの中で、小倉教会、甘木教会と経て、加治木教会のお広前が開かれて、そのお取次ぎを頂いておかげを頂いて、と皆さんお思いになられるけれども、それで私がどうなっておるのか？

家庭に帰れば夫婦の間がどうなっているのか、親子の間がどうなっているのか、仕事の間がどうなっているのか、油断がありません。その実際がどうなって行っているのかということがはつきりしな

かったら、立教百五十年というお年を迎えるということには、どうも、ただ年数が来てお祭を迎えたということだけに終ってしまうわけです。この私がどうなって行かなければならないのかということが、私も今、大きな宿題であります。今日は皆さんに一つ、大きな宿題を残し

て帰らせていただきたいと思えます。明年、立教百五十年というお年柄で御本部にもお参りさせて頂いた、各教会でもお祭を仕えさせて頂いた、皆さまけれども「ハイ、私はこうならせたいだいております」「これがわからせてもらいました」というものをもってお祭りにお参りさせて頂いた、また、日々の信心に励まさせて頂いた、行けたらいいと思えます。

この次またお引き寄せいただきましたときに「あのとき先生はあ言われましたが、先生こうならせたいいただきました」「これがわからせてもらいました」と、是非聴かせていただきたいと思えます。有難うございました。

四代金光様の御歌

わが道が

生まれたる日につながれる

今なり今日のいのちなり

(おわり)

少年少女会例会

七草祭・鏡開き

一月六日の少年少女会例会は「七草祭」「鏡開き」でした。風邪の流行や始業式前で参加者は少なかつたようですが、少年少女全国大会に出品する書初めも力作ができました。

七草祭で成長のお礼を申し上げた後、七草入りのたこ焼きを焼き、お正月のお鏡餅を焼いて入れたぜんざいを、親奥様を囲んで頂きました。



ご霊神様のおまじり

二月 (敬称等略)

- 桐野ケサノ之霊神 (1日) 昭和9年
 - 桐野秋子之霊神 (3日) 昭和7年
 - 安武松太郎大人之霊神 (4日) 昭和26年
 - 中村照子之霊神 (4日) 平成15年
 - 吉屋安光之霊神 (8日) 平成1年
 - 川畑正徳之霊神 (12日) 昭和23年
 - 矢野政美之霊神 (12日) 平成11年
 - 小屋敷慶二之霊神 (14日) 平成4年
 - 川畑助太郎之霊神 (18日) 昭和23年
 - 最勝寺剛藏之霊神 (18日) 昭和47年
 - 平島タキノ之霊神 (18日) 昭和52年
 - 福山一間之霊神 (20日) 平成16年
 - 川畑幸正之霊神 (21日) 昭和21年
 - 中村正義之霊神 (21日) 昭和21年
 - 野口ミヤノ之霊神 (22日) 昭和60年
 - 平島房代之霊神 (24日) 昭和6年
 - 中島武夫之霊神 (24日) 昭和50年
 - 桐野ケイ之霊神 (25日) 昭和2年
 - 山下ヒサエ之霊神 (28日) 平成2年
 - 宮内ミツル之霊神 (28日) 平成13年
- 「先祖のご霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。
立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。
教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。」

二月十七日(土)

甘木親教会 報徳祭 参拝

出発 午前七時頃
帰着 午後六時頃

二月二十一日(日)

午前十一時より

加治木教会

(前日御用奉仕)

報徳祭 奉仕

※ご祭典・教話・後直会。

講師 大口教会 信徒総代
入木田 覚氏

報徳祭

二月七日(日)

多良木教会 報徳祭 午前十一時より

西鹿兒島教会 報徳祭 正午より

二月十四日(日)

上荒田教会 報徳祭 午前十一時より

三月十三日(土)・十四日(日)

午後二時より 午前十時より

典楽会

※十三日は主に初心者
鹿兒島教会にて

会費・昼食費など 一〇〇〇円

琴・龍笛(横笛)・笙・筆簾

教会行事

2月

- 1(月) 報徳月例祭 節分祭 10時半
- 3(水) 甘木親教会月参拝日
- 4(木) 甘木親教会初代立日御祈念 10時
- 6(土) 少年少女会
- 7(日) 多良木教会報徳祭 11時
- " 西鹿兒島教会報徳祭 12時
- 10(水) 月例祭 10時半
- " 青年会 20時
- 12(金) 矢野政美大人立日(祈念) 10時
- 14(日) 上荒田教会 報徳祭
- 15(月) 若婦人会
- 17(水) 甘木親教会報徳祭 11時
- 18(木) 甘木親教会「同蓋会」
- 20(月) 御用奉仕
- 21(日) 加治木教会 報徳祭 11時
- " 引き続き 矢野政美大人例年祭
- 22(月) 月例祭(蠶のみ賃付け) 13時半
- 28(日) 斎掃御用 10時

少年少女会 青年会 若婦人会は、都合により日程を変更することがあります。随時連絡しますのでお気を付け下さい。

3月

- 1(月) 報徳月例祭 10時半
- 3(水) 甘木親教会月参拝日
- 9(火) 斎掃御用 10時
- 10(水) 月例祭 10時半
- " 青年会 20時
- 13(土) 典楽会(初心者)「ス」
- 14(日) 典楽会(初心者・経験者)
- 15(月) 若婦人会 13時半
- 19(金) 斎掃御用 10時
- 20(祝) 春季霊祭
- " 青年会 20時
- 22(替) 月例祭 共励会 13時半
- 26(金) 28(日)
- 甘木親教会(少)「交歓会」
- 28(日) 30(火)
- 甘木親教会「教会子弟の集い」
- 28(日) 連合会信徒研修会
- 31(水) 斎掃御用 10時

